

「中国の現状と展望」

2015・12・3

1. 中国の現状

(1) すべてのカギは経済にあり！

- ・ 中国の状況は、あらゆる部門の改革を全目的に深化させないとたない。
(2013年第18期中央委員会第3回全体会議『改革の全面的深化に関する決定』)
- ・ 改革のカギは経済改革。改革により経済の持続的成長が可能となり、「中進国の罠」から抜け出すことができる。経済の持続的成長がなければ、共産党の統治も危機に。
- ・ 経済改革のカギは、市場の役割強化（政府、国有企業の権限縮小）⇨国有企業改革（既得権益層の巢窟）
- ・ そもそも現時点において経済の中高速成長は可能なのか？ しかも経済改革を実行しながら中高速成長を実現できるのか？

(2) 習近平の権力の掌握は進んだのか？

- ・ 反腐敗は、権力の掌握による改革の推進と効率的な官僚機構をつくる手段。
- ・ 権力（権限＋強制力）は、かなり掌握。だが“大改革”を推進するのに十分か？
- ・ 打倒される側も必死。抵抗は続く。しかし国民は支持。
- ・ 「トラもハエも叩く」は、必要に応じ、今後も続く。

(3) 国民との関係は大丈夫なのか？

- ・ 国民との関係の基本は押さえている。（格差は拡大、だが低所得層の所得も伸びている。腐敗については手を打った。政治的言論空間の制限は、全社会的な問題ではない。やはりカギは経済）

2. 中国の今後をどう見るか

(1) 習近平の権力基盤は盤石か？

- ・習近平への権力集中は、かなりの程度、党内「世論」のおかげであり、真の「実力」とはまだ断言できない。(⇔鄧小平)
- ・人民解放軍の掌握はまだ十分ではない。
- ・官僚機構の消極的抵抗。
- ・2017年の第19回党大会で真に権力掌握？ それまでに国有企業改革は？

(2) 2020年は重要な節目の年になる。

- ・中国共産党建党百周年。改革の全面的深化を基本的に達成。
- ・「小康社会」の実現。2010年のGDPと一人当たり所得を倍増。そのためには2016~20年は6.5%の成長が必要。

(3) ナショナリズムの扱いは難しい。

- ・近代中国の「宿願」（「富強」の中国と中国中心の国際秩序の建設）と21世紀の「国際秩序」の相克
- ・「世界覇権100年計画」（ピルズベリー）の評価

(4) まとめ

- ・中国は今後も「富強の中国」と「中国が主導する秩序の回復」の実現という宿願の強い影響を受けながら進んでいく。
- ・現状は、難しい内外政策のかじ取りを迫られており、基本的には試行錯誤が続く。
- ・この宿願をどういう風に表に出すか、国力のさらなる増大と国際社会、とりわけ米国の反応を見ながら決めてくるで。現時点で世界と地域に関する確定した具体的なビジョンはまだない。
- ・中国の軍事力の増強は、今後も確実に進むと想定しておくべきである。また中国の自己主張は強まり、それは大体において対外強硬姿勢と連動することも覚悟しておくべきである。
- ・中国が、どういう「ものの考え方」でこの中国の復権の問題に取り組むかが格別重要な意味を持つてくる。「考え方」の中身が変われば中国の対応も変わるし、しかも変わり得る。